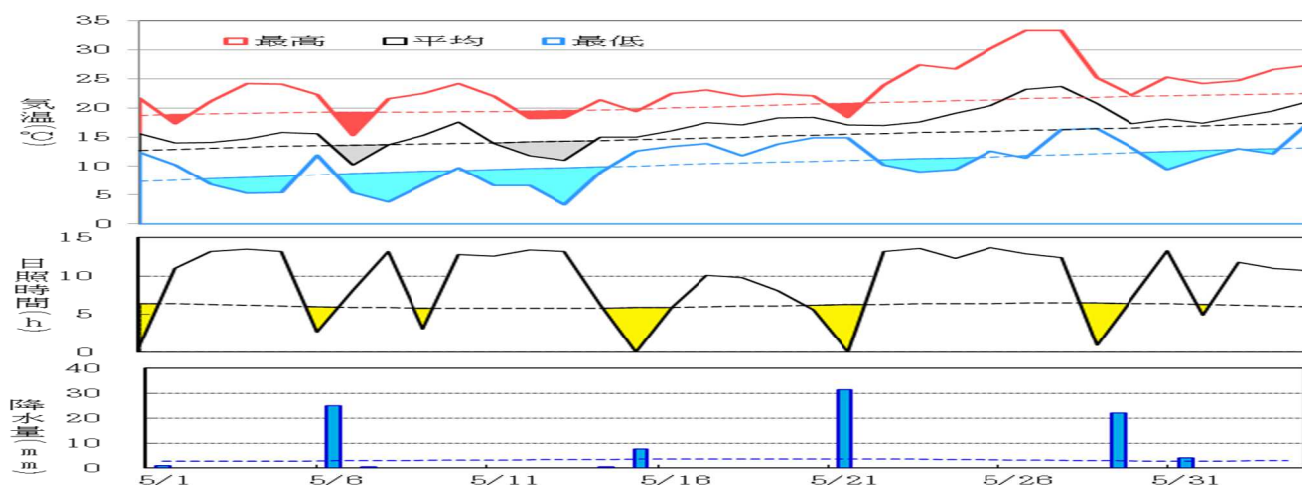


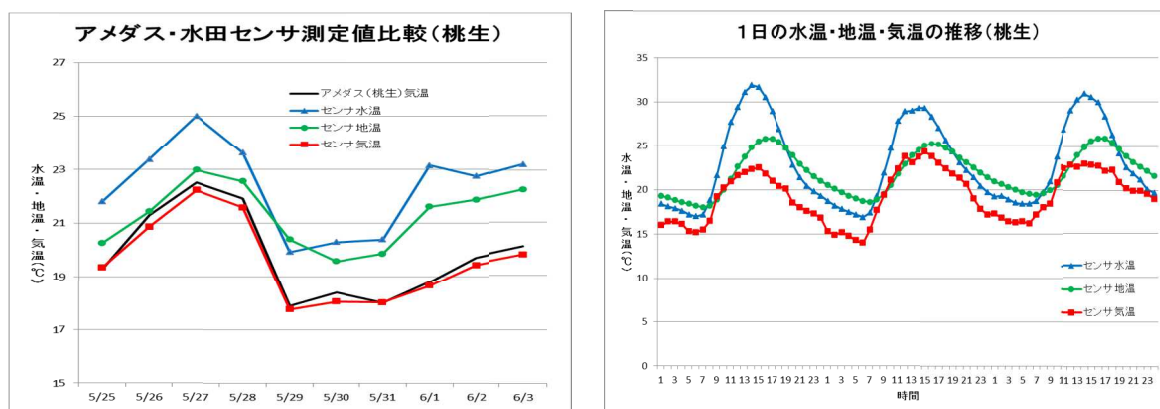
～田植後は高温多照で活着良好、生育は順調も順調！！～

1 気象経過（アメダス古川）



- ・5月の気温はかなり高めに経過し、最低気温がやや低い時期を除き、最高、平均とも高温傾向で、5月25日から3日間ほど最高気温が30℃を超えた。
- ・日照時間は、281時間（対比149%）と多照で、降水量は、92mmと（対比93%）であった。

【水田センサーの観測値】 本年から水田内に気温等のセンサーを設置して微気象を観測



2 田植と生育状況

（1）田植状況（5月27日現在）

- ・本年の田植開始期は5月4日で平年より1日遅く、盛期は5月11日と平年並みであった。
- ・5月27日現在で進捗率は98.6%で田植終期は5月22日と平年より1日遅かった。
- ・地域別に見ると盛期は、大河原地域が5月10日で気仙沼が5月15日であった。

区 分	田植始期 (5%)	田植盛期 (50%)	田植終期 (95%)
本 年	5月4日	5月11日	5月22日
前 年	5月3日	5月11日	5月22日
平 年	5月3日	5月11日	5月21日
平年差	1日遅い	平年と同じ	1日遅い



(2) 生育状況(5月31日現在)

- ・ 水稻の生育はきわめて順調であり、平年に比べ2日程度進んでいる。
- ・ 県全体平均で、草丈は 24.1cm (平年比 98%)、㎡当茎数は 118 本(平年比 104%)、葉数は 5.5 枚(平年差+0.2 枚)となっている。品種別では、草丈がササニシキを除き、平年並み～やや低く、茎数は全品種とも平年を上回り、前年より10%以上多くなっている。
- ・ 品種別の主稈葉数は、平年より0.1枚～0.5枚進んでおり、5枚程度となっている。
- ・ 高温で推移しているため、水田内には藻類が多く見受けられる。

県全体	草 丈			茎 数			葉 数		
	本 年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本 年 (本/㎡)	前年比 (%)	平年比 (%)	本 年 (枚)	前年差 (枚)	平年差 (枚)
	24.1	104	98	118	112	104	5.5	0.2	0.2

品種別	草 丈			茎 数			葉 数		
	本 年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本 年 (本/㎡)	前年比 (%)	平年比 (%)	本 年 (枚)	前年差 (枚)	平年差 (枚)
ひとめぼれ	23.7	105	98	118	111	102	5.5	0.1	0.1
ササニシキ	24.8	102	101	115	114	109	5.8	0.3	0.5
まなむすめ	25.2	106	97	122	113	106	5.1	0.5	0.3
だて正夢(参考)	26.6	103	—	122	111	—	5.5	0.2	—

3 今後の管理

(1) 補植用残苗の処分と葉いもち防除

- ・ 県内各地域をみると6月3日時点で、多くの圃場で残苗が放置されている。
- ・ 残苗は、本田のいもち病の発生源になるので速やかに処分する。
- ・ 葉いもちは、収量や品質に影響を及ぼす穂いもちの伝染源となる。
- ・ 病徴が進展してからの防除では十分な効果が期待できないので、水田をこまめに見回り、早期発見、早期防除に努める。



(2) 水田内の初期害虫

① イネミズゾウムシ

- ・ 発生時期は平年よりやや早く、成虫の発生地点率は平年並であった。
- ・ 前年の発生量が平年よりやや多く、越冬密度は平年よりやや多かったと推測される

② イネドロオイムシ

- ・ 発生時期は平年よりやや早かったが、成虫の発生は確認されなかった。
- ・ 前年の発生量が平年並であったことから、越冬密度は平年並と推測される。

※両害虫へは、移植前～移植時に殺虫剤を使用しなかった場合、移植後に以下の要防除密度を目安に防除する。

【要防除水準】 イネミズゾウムシ-畦畔際2m程度の成虫密度100株当たり140頭

イネドロオイムシ-成虫密度：100株当たり25頭

病虫害名	発生時期 (成虫本田侵入盛期)	発生量
イネミズゾウムシ	やや早い 5月第6半旬(5/26～5/31)	平年並

病虫害名	発生時期 (産卵盛期)	発生量
イネドロオイムシ	やや早い 6月第1半旬(6/1～6/5)	少